

平成30年12月 定例記者会見（報告）

1 日 時 平成30年12月26日（水）午後1時～午後1時30分

2 会 場 庁議室

3 出席者

<報道機関>米澤新聞社、山形新聞、朝日新聞、毎日新聞、河北新報、NHK
山形テレビ

<市> 市長、秘書広報課長補佐、担当者

4 記者倶楽部からの質問事項

- (1) 市長選にのぞむ姿勢を改めてお聞きします。
- (2) 職員の飲酒運転を撲滅するため、どうしますか。
- (3) 今年一年の市政を総括、ご感想を教えてください。
- (4) その他

5 内 容

○秘書広報課長補佐

それでは、定刻となりましたので、平成30年12月の定例記者会見を始めさせていただきます。この度は、三つほど質問を頂戴しております。初めに市長からお答えさせていただきます。

○市長

よろしく申し上げます。まず、「市長選にのぞむ姿勢を改めてお聞きします」という質問です。先月の定例記者会見でもお話しをさせていただきましたが、いよいよ任期が残り1年となって参りました。その中で、米沢市行政を取り巻く課題はたくさんあると思っておりますが、就任前からの課題であった市庁舎の建設も順調に進んでいると思っております。そして、医療連携による病院の改築も方向性は見出したところでもあります。ただ、細部に渡ってどのように地域医療を守っていくかということについては、相手側の三友堂病院さんと話し合いを進めていかなければなりません。地域の皆様に信頼される病院づくりに向けて、しっかりと取り組んでいかなければならない、それは私の責任だと思っております。

また、小中学校の統廃合の問題も以前からありました。就任してからすぐに「とりあえず早めに対応をして欲しい」という南原地区の皆様のご要望を受けまして、来年度からは南原中学校を二中に統合するということにさせていただきました。改めて小中学校の統廃合については、教育委員会で新たな方向性を見出させていただきました。

現在、中学校を3校にするという方向で各地区との協議に入っているというのが、教育委員会の現場でのお話しであります。いろいろな課題も出てくるかと思っておりますので、そこはしっかりと取り組んでいかなければならないと思っております。

そういった課題があった訳ではありますが、一定程度、方向性を示すことができたと思っております。いよいよこれからが、その取り組みをしっかりと進めていくうえで重要な時期になってくると考えております。残り一年で出来れば良いのですが、もう少し時間がかかる部分もあると思っておりますので、その点も市長選挙において、一つの私の考え方を市民の皆さんに提示しながら、臨んでいきたいと思っております。

また、健康長寿日本一やブランド戦略など、就任してから取り組んで参りましたことについて、市民と一丸となってやっていかなければ成功しない事業であると理解をしております。人と人との関わりや団体との関わりなど、今まで培ってきましたいろいろなことも含めまして、これを絶対に成功させていかななくてはならないという強い決意で臨んでいきたいと思っております。さらに、高速道路の開通によって、道の駅米沢にも順調に多くのお客様にご利用いただいているとのことでもありますので、開業したという勢いだけでなく、どのように多くの皆様に恒久的に来ていただけるか、また、これを機に米沢においでいただくような中身についても、ブランド戦略も含めて対応していかなければならないと思っております。

そして、今年は「上杉メモリアルフェスタ」という節目の年でありましたが、来年度はいよいよ、市制施行130周年を迎えることとなります。初めから計画をしていましたが、平田東助先生の像を米沢に移設するという事で、先日も、全国農業協同組合中央会さんの方から寄附の申出をいただいたところでもあります。これも市制施行130周年の事業として取り組んでいかなければならないと思っております。

市制施行130周年を機にこれからの米沢市民の皆さんも、そして、地域経済も発展するような方向性に結び付けていかなければならないと考えておりますので、そこはしっかりと取り組んでいきたいと思っております。こういったことを市民の皆様にご提示させていただきながら、この姿勢を多くの方に共有いただいて、市長選挙に臨みたいと考えております。

次に、「職員の飲酒運転を撲滅するため、どうしますか」というご質問であります。今回の飲酒運転は非常に残念でありました。これを受けて、庁議の中で幹部職員にはしっかりとこのことを受け止めるよう伝えました。当然、飲酒運転は犯罪でありますので、やってはいけないということは全ての職員、全ての人間が分かっていることだと思っております。トップとして職員にはさらに話しをしていかなければならない訳ですが、職員がそういった意識をしっかりと持つということが、これからの大きな課題であると思っております。今回の件を教訓として、飲酒運転をしない、させないという意識の徹底を職員に対して図っていきたいと思っております。各場面でこのことはお話しておりますが、これまでも私のみならず課長の方からも、それぞれの職場の中で意識の徹底を行ってきております。今回ははっきり申し上げまして、飲酒運転をしてあのような結果になり、職員は生活や人生を棒に振ったと言っていると思います。その

ような点では、職員ひとりひとりの大きな教訓になったとっておりますし、また12月28日の仕事納めの式において、今年反省というよりも、とにかく、当たり前ですが、飲酒運転はダメだという意識付けを図るように市長訓示をさせていただきたいとっております。二つ目の質問については以上であります。

三つ目の「今年一年の市政を総括、ご感想を教えてください」という質問であります。常々、市民の皆さんが米沢に住んでいて良かったなと感じられるような市政をしなければならないとっております。そういった中で、まちづくりは市民と協働して一体的にやっていくということも重要でありました。また、もうひとつは働く場を創出するため、地域として産業・経済面の構造をどのように作っていくのかということも大きな課題でしたので、そのようなことも頑張ってきたなとっております。

先ほども触れましたが、一つは市民生活のためにということで、市庁舎や市立病院など、従来からあった課題の方向性のある程度見出すことができたと思っております。産業・経済振興の面から言いますと、一定程度新たな基盤づくりもできたと思っております。やはり山大の有機材料システム事業センターが完成したので、これから地元企業なり新たな企業の研究開発に、経済効果を生み出すことができるものが建設されたということで期待しております。また、県外からの誘致企業が2、3社創業しておりますので、そういった部分でも一つの地域の産業経済の活性化に繋がったのではないかと思います。さらに、道の駅米沢も予想以上にご利用客が多いということでうれしく思っております。

「健康長寿日本一」や「ようざん桜の杜構想」の最初のとっかかりは行政であります。後は市民の皆さんで作り上げていくというものであります。そういった市民との協働も含めまして、新たな地域づくりに種をまきながら芽が出てきた部分もあるのだらうと総括をしているところであります。また、米沢だけでなく、定住自立圏である置賜全体の課題についても、三市五町で連携を取りながらやっていこうということで、対応することができましたので、これから連携を深めていかななくてはならないと思っております。総括をしてみますと、将来に向けた地域活性化の基礎を固めた年になったと感じているところであります。

以上、三つの項目についてお答えさせていただきました。

○秘書広報課長補佐

それでは、質疑がありましたら幹事社を中心によりしくお願いいたします。

○幹事社

はい。順番通りお聞きしたいと思います。現在、市長選へ向けて二人が出馬表明しており、市内でいろいろな選挙観測や情報が流れております。前回の市長選で中川市長を支持された票、ある意味で保守票というものが分かれるのではないかと観測も出ております。後援会も含めて、どのような議論をしているのか教えてください。

○市長

相手の海老名市議も（私と）同じ遠藤武彦代議士からの流れを汲む訳でありますので、そういった面では、保守が分かれるということはお話しの通りなのだろうと思っております。そして、私の場合、人と人との関わり合いというものも出てきておりますので、そういったものも今後は組織化をしていかなければならないと思っております。特に、17地区の方々といろいろな議論をさせていただきましたので、その地区のあるべき姿なども含めて、しっかりと組織固めをしていきたいと考えております。このような声は後援会内部の方からもいただいております。

○幹事社

一つ目の質問について、他に質問などありますでしょうか。

○記者

推薦願については考えていますか。

○市長

まだ、そこまで考えておりません。推薦願というのは政党ですよ。もちろん選挙ですから、相手の出方もあると思いますので、そこはこれからの課題です。

○記者

来年の市政施行130周年の際に、平田東助像を移転するというお話しがありましたが、その他に何か考えていますか。

○市長

一応、130周年という周年事業ではありますが、なるべく予算をかけないで市民に誇りを持っていただけるような内容を考えていきたいと思っております。講演会なども含めて2つ、3つ考えているところであります。

○記者

今のところ披露できるものは平田東助像の移転についてだけですか。

○市長

平田東助像の移転と、あとはまだはっきり確定しておりませんで、どのようになるかなのですが。今年のメモリアルフェスタでは、林修先生をお招きいたしました。林先生は、以前から鷹山公や上杉家の歴史に大変興味を持っていたとのことでした。

高齢になりましたけれども、私も若い頃、何度か呼び出した覚えのある童門冬二先生をお招きしたいと考えております。若い方には分からないかもしれませんが。

○記者

それは構想中ということでしょうか。

○市長

はい。これから間もなく年が明けると、予算の時期にもなってきますので、担当の方とはいろいろ話はしております。

○幹事社

次に二つ目の項目について、質問などありますでしょうか。

○記者

飲酒運転の問題を受けて、市では忘新年会を自粛するという話はあるのでしょうか。

○市長

正直に言いまして、12月定例会最終日に我々も打ち上げを予定しておりましたが、これは取りやめとさせていただきます。ただ、他の部や課については、地域経済との関わりもありますので、気をつけなさいということで、自粛ということまではしませんでした。

○記者

打ち上げの取りやめは、市からの提案ですか。議会からの提案ですか。

○市長

6月は議会主催で、12月は市が主催で懇親会を行っております。飲酒運転が起きたすぐ後に懇親会の計画があった訳ではありますが、これは自粛すべきであろうということで話をしました。市長をはじめ三役、各部課長、議長、議員も数名出席するということでありましたので、この時期に市当局と議会で忘年会を行うのは良くないだろうということで、我々の方から取りやめをさせていただきました。

○記者

今回の処分についてはいつごろでしょうか。

○市長

早めにしなければならないのかという話もある訳です。しかし、まだ起訴には至っておりませんので、その辺は警察の状況を見ながらになります。担当部の方とはいつまでも引っ張ってはいしょうがないだろうということで話はしておりますが、いつ処分するのかについては決定しておりません。ただ、いつまでも引っ張っている訳にはいきませんから、近いうちには対応しなければならないだろうと思っております。所管するところは総務部であります。まだ私も明確な時期についての話はしておりませんので、そこについてはご勘弁いただきたいと思います。

○幹事社

それでは、3つ目の項目について質問はありませんでしょうか。

○記者

今年是将来の地域活性化へ向けた基礎を固めた年になったという位置付けですよね。

○市長

はい。そのような感じを持っております。行政だけでなく、市民の協力も得ながら課題を提起し、市民一丸となって取り組んでいきたいと思います。いろいろなできたのではないかと考えております。例えば、健康長寿日本一の市民会議や上杉メモリアルフェスタ事業の中のようなざん桜の杜などです。「ようざん桜の杜構想」では、みんなで桜を植樹しようという実行委員会を創設していただきました。あとはやはり企業誘致などもある程度成功しましたので、明るい材料が市民の皆さんの中にできたのではないかと考えております。そういったものをばねにして、どのようにブランド戦

略を進めていくのかがこれからの課題です。この間も、第一回目の「TEAM NEXT YONEZAWA」の登録証授与を行った訳ではありますが、いろいろな団体や企業さんが登録をされておりました。そういった意識付けや意識の高揚を図っていかねばならないなと思っております。ただ、一定程度そういう方向性を見出すことはできたのではないかと考えております。

○幹事社

その他の項目について、ご質問ありますでしょうか。

○記者

まだ時期的に早いのですが、副市長、教育長を含め、トップの人事については何か考えていますか。

○市長

聞いたところによりますと、教育長の任期が3年になったということで、任期満了を迎えるということは聞いております。ただ、副市長の場合は任期4年となっておりますので、まだあと1年ある訳です。ですから、まだどうこうという腹は固めておりません。

○記者

新しい人を引っ張ってきたいなという考えはないですか。

○市長

今のところは持ち合わせておりません。

○記者

分かりました。ありがとうございました。

○幹事社

その他、よろしいでしょうか。

○秘書広報課長補佐

ないようですので、これで平成30年12月の定例記者会見を終了いたします。